

やまもりキャンプ通信

2011. 6. 18 (土) ~19 (日) 第1回「初夏の森遊び♪」

「ヤッホー！」大きな声で

何度も何度も「ヤッホー！」

気持ちがよいとき、素敵な景色を見たとき、霧で迷いそうになった時。みんなの声がひびき渡ります。

梅雨に入ったばかりの清里は、エゾハルゼミの大合唱。

雨なんてなんのその！

2011年度 第1回やまもりキャンプ
始まりました！

ぬしの木ハイク

清里は標高 1350m。ふもとの町から見ればここは雲の中。

今日はふわふわと漂う霧の草原、霧の森。雲の中の探検！

「雲、つかめないかなあ」「おれ、雲食べたい！」

僕も小さい頃は、同じことを考えてました。

疲れたら、サラサドウダンの下であんぐりと口を開ける。

サラサラ振るとおいしい蜜が降ってくるのです。

ぬしの木までの道は、霧の森のやぶこぎハイク。

子ども達は、あっちへこっちへさまよいながら歩いて行きます。

真っ先に駆けていく子ども達、ゆっくり歩く子ども達。

「迷ったら声を出し合うんだよ」「ヤッホー！」

「…ヤッホー！」「あ、あっちから聞こえた！」

迷いやすい霧の森、みんなで協力してぬしの木に辿り着くことができました。

みんなで摘んだ野草でお茶も作りました。ヨモギの新芽にササの新芽。

子ども達からは「これも入れたら甘くなるかな？」と

さっきのサラサドウダンの花も…。



たき火

新聞紙を丸めて小枝をおいて…どうやったら火がつくかな。
新聞紙が湿っているのか中々燃え上がりません。でも
子ども達のカと「がんばれ！」の応援でついには火がつけました！
今回のたき火の目的は「**作戦会議**」。
やま もりキャンプでは「自分で考えやってみる」経験と「みんな
で考えやってみる」経験、そして異年齢の仲間の中でお互いを
認め合い、育ち合うことを大切にしたいと考えています。
明日の森あそびでどんなことをしようか、高学年を中心に
子ども達だけで話し合ってもらいました。

「かくれんぼがいい！」「川遊び！」「でも川で遊んでたらそれだけで二時間終わってしまうよ？」「秘密基地つくりたい！」「材料はなににする？」



みんな手をあげて、いろんな意見を出してくれました。
そしてさすが高学年。見事な仕切りで低学年の子ども達の意見をまとめていきます。大人の入り込む余地はなかったです…。

たき火が置き火になる頃には、あたたかい**アップルティ**と恒例の**焼きマシュマロ**で、みんなホンワカ。

森あそび

昨日からの雨も上がって
ようやく晴れに向かって雲が動きはじめました。
僕たちもウキウキ。動物たちもウキウキ、と思っていたら…
なんとウキウキしすぎた**シカ**の群れに遭遇。
子ども達はじっとシカを観察。
シカもじっと子ども達を観察。
僕らが動き始める頃、シカ達もゆっくり去っていきました。



やま もり こぼれ話♪

いつも、夜になるとちょっと不安になって、なかなか寝付けないYくん。深夜、スタッフのところに「眠れない」と言いに来るのが恒例のようになっていました。今回、そんなYくんが一度も「眠れない」と言いこなかったのです。きっかけは、小学生のころからキープ自然学校のキャンプに参加していたリーダーの「俺も小学生の頃、キャンプに来るたび寂しくて泣いてたんだ」の一言。不安になるのは自分だけじゃないんだということ、大きくなって頼れるリーダーとして戻ってきている姿に、自信がついたようです。ひと晩しっかり眠ったYくんの顔は、晴れ晴れとして、なんだか頼もしくなっていたのでした。

今日の森遊びは、そのシカの森へおじゃまします。

昨夜の作戦会議でみんなで決めた「秘密基地づくり」と

「かくれんぼ」をしよう！

「ビニールシートを屋根にしたい」「入り口にすてきな門をつくろう」

「こんな風にロープはってみたよ」

「秘密基地なんだから外からわからないようにしないと」

びっくりするようなアイデアをぼんぼん出しながら「森の秘密基地」が出来上がって行きます。葉っぱや枝で作った飾りでできたりっぱな門や木の枝の壁がとてもおしゃれ。みんなが入れる大きな家が出来ました！



森の中のかくれんぼも、「みどり色の服の子は中々見つからないよ」

「赤い色の子はすぐに見つかったよ」森の中を駆け回って、中々白熱したみたいです。

そしたらかくれんぼの男の子達が、いつのまにかもう一つ家を作っていました！

男の子達が名付けた「森のカフェ」。巨大な丸太を何本も使って組み上げた

カッコいいカフェです。葉っぱの屋根も骨組みも、ダイナミック！

だけど

「葉っぱを屋根に使うのはおれ達のアイデアだぞ！真似するなよ」

「この秘密基地は作った人しか入れません」

いつのまにか二つの基地の間で対立が始まってしまいました。

だけど森のカフェの男の子たちがみんなにお茶を振舞うと、対立していた子ども達もカフェでお茶をもらったり、男の子達も秘密基地を見に行ったり、ちょっとずつお互いの作ったものを認め合えるようになりました。気持ちがぶつかり合うくらい一生懸命ものを作り合えたということは、本当は素敵なことかもしれませんね。



思い出づくり



ふれあい広場。大草原のまん中でみんなで思い出作りです。それぞれの**バンダナ**にみんなで寄せ書きをします。子ども達は「また会おうね」「たのしかった。ありがとう」大人からは「大きくなったらリーダーになってね」などなど、誰かに書いてもらっている間の子どもの表情は本当に嬉しそうです。

またここに帰って来られるように。
2日間過ごした仲間達とこれからも会えますように・・・。

2011 年度より、毎回「**やま もり みんなのうた**」を作ることにしました。みんなが知っている歌を替え歌にして、子ども達から言葉を拾い、一緒に歌詞を作っていきます。**その時感じたことや言葉を、歌としてずっと口ずさむことができるように**…という思いから始めました。びっくりするようなワードが飛び出てきて、子ども達の創造性に驚かされます。今回の歌をどうぞ歌ってみて下さい(プログラム担当：山田)

「やま もり みんなのうた」(1ばん)
(新沢としひこ「世界中のこどもたちが」のメロディで)

マシュマロはほっぺがおちるほど
ちょううまかったよ
サラサドウダンあまかった
しぜんいっぱいだよ
さむさむさむ もりあるき
ピショピショになったよ
ドロドロ グッチャグッチャグッチャ
びっくり ぬしのきでか!
ザーサイがらじはんにおこしにきた
はやかった
あささんぽ トリいない
テントのもりでピショピショ
ハチがきてこわかった
ひみつのあんごうおしえて
きちづくりじょうずにできた
うらう おかかおいしかった
うめほしバス くちのなか
シカをみた すごかった
もりのカフェ きくらげさんらん
うらう たのしいもりあそび

食べる・寝る・あそぶ・・・♪

「初めてのキャンプで心配」「自分の物も人の物も区別がついていません」そんな1年生のお母さんの声がありましたが、それぞれに頑張っていて(リーダーの努力の賜物!)何とか自分の荷物を一塊にしました。高学年の子ども達は、誰から言われるわけでもないのに、よく手伝ってくれ、低学年の面倒もみてくれます。手伝いもするけれど、自分達がやりたいことにもぬかりがない!自然の中やキャンプでの楽しみ方をよく知っているんですね。本当に頼もしい子ども達。そしてその姿に憧れて小さい子どもが育っていくのです。

ここ数年、嬉しいことに、キャンプの卒業生が、リーダーになって手伝ってくれます。「あんなに泣いていたあの子が・・・」と子どもの頃を知っている私にとっては涙が出そうな光景です。キャンプの名前やスタッフが変わっても、繋がってしてくれることに感謝しています。出会いがあれば、別れあり。幼稚園の時からキープ自然学校へ来てくれていたジャスティン君がアメリカへ旅立つことになりました。大きくなって戻っておいで・・・みんなで見送りました。

(生活・保健担当：黒田あや)

やまもりの宝物 (編集後記)

2011 年度最初のやま もり キャンプ。私たちスタッフは、いつもメンバー表とスケジュールを前に「あーでもない、こーでもない」と様々な心配をしながら当日を迎えるのですが、子ども達はそんなおとなの杞憂をよそに、あっという間に仲良くなり、お互いに助け合って森の中に溶け込んでいきます。今回も、1年生から6年生まで 28 人の子どもたちが森に集いました。記事にもあるように気持ちがぶつかり合う場面もありましたが、すぐに子ども同士で解決して、後を引かないところはさすが!です。

6月の森のように、いろんな経験をぐんぐん吸い込んで育てゆく子どもたち。ぶつかり合うことも、優しい言葉を掛け合うことも、困ったときに助けてもらうことも、仲間と大声で笑い合うことも、すべてが心の栄養になっていることを感じます。あっという間の1泊2日でしたが、そんな子ども達と過ごした時間は、私たちおとなにとっても、たっぷりの栄養となりました。送り出して下さった保護者の皆様、本当にありがとうございました。この場をかりてお礼を申し上げます。(やま もり キャンプ事務局：坂上秋津)

「初夏の森遊び♪」の仲間たち

こども：

スタッフ：あきっちゃん(坂上秋津)、あーちゃん(黒田あや)、あかし(山田証)

リーダー：すみー(松本澄子)、ザーサイ(田上百合子)、やぎっち(八木幸大)